

## 当院初の卵円孔開存症(PFO)閉鎖術施行と、心房中隔欠損症(ASD)の施設認定承認のお知らせ

循環器内科 福井 重文

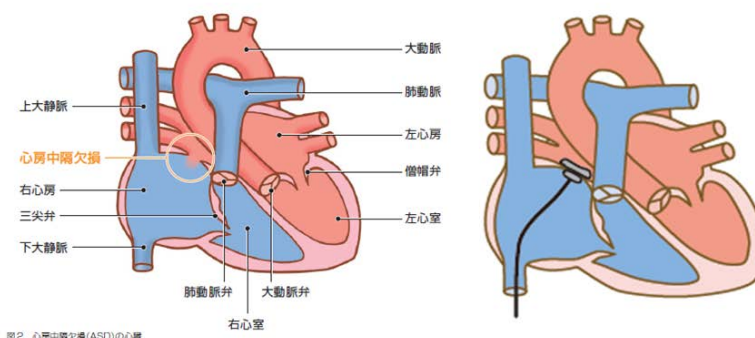
平素よりご指導とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

この度、2023年1月下旬に、当院で初めての卵円孔開存症(PFO)のデバイス閉鎖術を施行致しましたので、ご報告させていただきます。奇異性脳塞栓症の若い患者様でしたが、事前に当院の脳卒中専門医、心エコー専門医、及びインターベンション施行医からなるブレインハートチームカンファレンスにて適応や手技について議論を重ね、当日に臨んでおります。当日はハイブリッドカテ室にて、エコー担当の生理検査技師、看護師、放射線技師などのご協力もあり、無事に手技を終えております。引き続き井澤 英夫教授のご指導の下、院内外の連携を図りながら、安全な手技施行に努めて参りたいと思っておりますので、ご指導とご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

また、追加でご報告させて頂きたい事として、先日当院の心房中隔欠損症(ASD)のデバイス閉鎖術(図)の新規施設認定の承認を関連学会から頂きました。こちらは実際には4月から治療可能となりますが、引き続き当科の心エコー専門医や、小児科医、心臓血管外科医とも連携し研鑽を重ねながら、安全な手技を行っていきたく思っております。

<図>心房中隔欠損症(ASD)の模式図と、その閉鎖デバイスの仕組み

### ASDデバイス閉鎖術



閉鎖栓を配置した心臓の図

Japan Lifelineより

Abbott medical Japanより